



定額一圓五角... 廣告料五圓... 印刷所 常磐每日新聞株式會社

考へさせらるる人

磐岳 遼人

(一)

自分は昨春病氣以來幾分閑を得て種々の書物を涉獵し、その間また多少思索する所もあつたが、結局考へさせられる事柄は、年々百萬に近い人口の増加と、この殖え行く日本民族の將來といふことであつた。壁間に世界地圖を掲げ、それを指呼して我民族の將來に於ける發展の餘地を案じて見たことも屢々であつたが、多くの所は既に國際的の既成勢力であり、先進諸國によつて『日本人不可入』の制札が掲げられてゐる、少くとも夫々の繩張りがされてゐる。

唯一つ、形式的には何れの國かの版圖となつてゐるが、事實上全く未開の状態にあり、將來我民族の發展を許さるべきかと思はれるところがある。それは熱河から新疆を経てバミール高原を横切り、アフガニスタン、ペルシヤの地邊を通つて地中海の東岸に至る地方である。若しこの諸地點を連ねる一線約四千哩の鐵道を日本民族の手で敷設すること成功すれば、十年後にこの方面の支配的地位を

握るものは日本民族以外に何人があるか。

露帝アレキサンダー三世が、地圖の上にペテルスブルグから浦鹽に至る一線を引き、全く獨斷的に大藏大臣に命じて作つたシベリヤ鐵道が、事實ロシアの東方經路の根幹になり、今日な

ノート

魚類などは檜葉には檜葉 笹葉南天の葉等を添くると體裁よく生々して見える

ほ東方に於けるロシアの勢力の根基をなしてゐる、自分が四十五年以前單身滿洲に入つて初めて大豆の輸出をやつた當時、滿洲に於ける日本人は全く自分一人であつたが、日清戰役を経て日露戰争による日本の滿鐵獲得と共に我國の滿洲に於

【朝】煮びたし—芋ずみき 油揚げ 【晝】焼き肴—こはだ骨切り付やき おろし大根 【晚】酢のもの—しろうり酢どりあぢ三杯酢

若し前記の鐵道計畫を遂行實現することが出来れば、獨り日本民族の將來のためのみではなく、百年の將來に於ては全人類の文化の上に重大なる貢獻をなし、大和民族の民族的使命を遂行するの一端ともなると思ふのである。憶へばアレキサンダーの東征も、コロンブスのアメルカ發見も、ナポレオンの偉業も、秀吉の大

明征討も總て英雄の夢から生れた成果に過ぎない。

Table with 2 columns: 人事 (Personnel) and 地相 (Geography). Includes terms like 高野, 島野, 易象, 斷象, 前所定.

【一】營業は多忙なるも水難火難印形書附に注意【二】望事不調の日は約【三】東事や病氣に注意【四】金は手に入り望事達せんとす【五】家内の口舌に注意【六】縁金銭上不平不満を起す事あれば人と和順以て吉【七】此の問題は何れに相談せんと迷心起れば謙遜以て吉【八】目的に奔走の念起るも費用負け点多れば現狀維持吉【九】金談普請の件は吉唯長男長女の怪俄に注意【一〇】病氣怪俄紛失盜難に注意の要する凶日【一】紫骨折り損害を蒙る凶日【二】紫なれば水火の難と離別死別等の争ひを起す勿れ

美味で! 評判の... イワキ サロン 電 352

お醬油は... ヤマフル 醬油味噌 たひら正宗 鯉節 食料品 山崎合名會社 福島縣平町電話營業部三醸造工場三 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

急告 酷暑の砌り各位益々御清勝の段奉賀上候陳者今般凍水及其他諸原料騰貴の爲止むを得ず本日より左記の通りの値段に改正仕候間何卒御諒承の上倍舊の御引立に預り度此段急告仕候 八月四日より改正値段

平署管内平町氷水商組合員 魚清食堂部 藤市氷店 藤寅氷店

貸切の... 御用命は!!! 獅子吼(四四九)ノ勢デ 眞先ニ... (マツサキ) 三九二タクシー!!!

高久病院 院長 醫學士 高久 忠 副院長 新潟醫學士 赤羽 清 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄 平町田町 電話五二三番

夏期中自動車料金値下 夏期中沼ノ内、薄磯、豐間、江名方面 行乗客の御便宜を計り左の通り料金値下げ致します。 片濱料金 沼ノ内 二十五錢 薄磯 二十五錢 豐間 三十錢 江名 四十錢 期間七月二十五日より八月三十一日迄 片濱乗合營業者

玉炭 炭 平驛前 石炭 阿部石炭商店 電話三七番

古物商が業界の

刷新を圖る

三堀検事及び警察當局と

炭坑側をも加へて座談會

大檢舉に反省

平検事局及び平警察署にては銅線其他金屬物の盜難頻發に鑑み

同犯人の捜査と共に

這般古物商を一齊檢舉する處あり其數八十餘名に達し贓物故買の根絶を期して事件は漸く一段落を告ぐるに至つた、此の

檢舉に遭遇して一大

脅威を感じた古物業者は健全分子を糾合して業界の刷新を圖らんが爲め既記の如く平町、内郷、好問の同業者結束組合を組織したが今後取締當局と密接な連絡を保ち其の

監督下に誤りなき營

業を進展せしめんと取締當局と會見意見の開陳を爲すべく座談會を開く事となり川崎本社の幹旋奔走に依つて昨日午後二時よりマルトモホールに三堀検事を始め平署より小林次席警部補菊地司法主任、橋谷田監督部長、草野刑事の四氏を迎

組合側

よりは武藤組合長、近藤、小山兩副組合

長、横田幹事其他十餘名出席更らに金物被害を最も多く受ける炭坑側として磐炭の小島、長堀兩氏、古河の佐藤氏等も席に臨み肝煎り役としての川崎本社の挨拶あつて

俵擔ぎも

競技に加へて

石城青年團の陸上競技

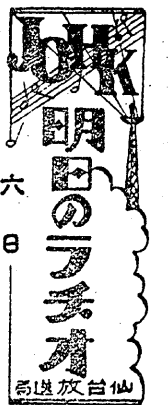
石城郡下各青年團對抗第十回陸上競技大會及び武道大會は来る九月十日より磐中トラツクに於て開催と決定されたが競技種目は百米、四百米、千五百米、一萬米走高跳、走巾跳にて従來行つた八百米リレーを廢し新たに千米瑞典リレーレース(百米、二百米、三百米、四百米)を加へる事になつた因に同大會に於ける優勝者は来る十月一日若松市に於て開催される縣下青年團競技に出場する権利を獲得するものであると

徴兵検査

執行各係

十九日から

既報郡下二千四百十四名の今年度壯丁検査は来る十九日より平第一小學校講堂に於て執行されるが徴兵官は福島聯隊區司令官黒岩義勝大佐及び縣社寺兵事課長水野谷平吉氏外五名にて學術試験委員は平第一會我、第二津田、第三赤津の各校長を初め第一坂内、第二金澤、第三新家の各首席であると



明日のラジオ
報豫氣天
の風曇一時晴驟雨
氣味

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
少年科學講座「大空を翔り海底を潜る」菊地麟平
後六、二五「東北北海道」産業講座 北海道特産蔬菜について(第二講)北海道農事試験場 宮澤春水
後七、三〇 講演
後八、〇〇 映畫物語
後八、二五 長唄「秋の色」種々彌外

検事局の

審理事件

目下平検事局に於いて審理中に屬する件數は私文書偽造行使、詐欺、業務上横領、醫師法違反、窃盜、傷害、自動車事故等四十一件の多きに達してゐるが其内自動車事故が最も多く二十一件を占めて居る是れはいづれも暑さの爲め運轉上に倦怠

平陽跡の

賣却協議

平町では来る八日午前十時より役場會議室に土木委員會を開き町有地である平陽女學校跡賣却の件其他を協議する

平町に最初の

仕舞稽古舞台

白土氏が新設

平町町喜多流謡曲師匠白土喜伯氏は今回有志と圖り平町最初の仕舞稽古舞台を田町六十九番地に設けたが一般にも開放すると

點呼豫習好績

既報平町在郷軍人分會にては本日午前八時より第一小學校

後九、〇〇 管絃樂「新交響樂團練習所より中繼」日本放送交響樂團 指揮ニコライ、シフェルブラツト
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告
明日の部
前九、一〇 榮養料理献立 榮養研究所
前九、三〇 子供の時間 お話「放射線療法」長橋正道

前一〇、〇〇 宗教講「望まじき生活」天臺宗寺門派長史山科晃玉
前二、〇〇 野球試合實況 第七回都市對抗野球大會(第四日)明治神宮外苑球場より中繼
前二、四〇 講演
後一、一〇 講演
後一、五〇 各局の午後小唄 札幌藝技連
後一、三〇 俚謠 坂田光月外
後一、四〇 祭禮囃子 秋田仙北郡角館郷土藝術研究會連
後一、五〇 俚謠「堀内屋囃子」越後堀之内屋臺囃子連
後二、〇〇 俚謠 木曾福

島町連
後二、一〇 俚謠 前橋小唄はん子
後二、二〇 俚謠富士町連
後二、三〇 遠洲大念佛
後二、四〇 里謠 松角町連外
後三、〇〇 世界民謠調べ堀内敬三外
後六、〇〇 子供の時間 唱歌劇「おとしあな」名古屋人形團
後六、二五(防空第六日)講演「防空と建築に就いて」東京帝大教授工學博士佐野利器
後七、三〇 謠曲「融」櫻間金太郎連中
後八、二五 小唄
後八、四〇 ラヂオドラマ

大神宮の祭禮

平町新川町に鎮座する大神宮祭禮は明日行はれるので地元青年團では餘興として花火演藝等を催す等

裁判所だより

▲平支部荒井豫審判事は本日矢吹書記と共に去月二十日栃木縣那須郡生れ赤井村川瀬炭礦新之助方萩田寅之助(三)が玉川村住吉地内で同村大字林城字辻前三番地長瀬武氏妻チカ(三)とを襲ひ現金十五圓及び腕時計を強奪した事件に付犯人同道自動車で實地檢證した

平職案紹介所報告

回人を求める方
△傭人 二十才前後 中卒程度 給料面談 湯本町某
△漁業雑夫 二十五迄 月七八圓 外面談 四倉町某
回職を求める方
△女中 三十一才 尋三修 給料面談 平町某
△運搬人 四十八才 中三修 給料面談 平町某
△雑夫 二十二才 高卒 給料面談 平町某



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演 山本英春畫

第八回 血に飢ゆる村正

獨りで鞘走る村正

太惣次夫婦も大層喜んで刀を鍛つて呉れると頼む、太惣次の家は石切が本職で道具を始終直すから鞆や金槌の用意もある、そこで村正が人を頼んで至急にたがねを買つて来て貰ひ、小川へ入つて身を淨め、細工場を作つて其の中に入り、夫から一心不乱になつて刀を鍛上げた、長さ一尺三寸、砥ぎを掛けて見ると、實に我ながら感し入る程の名刀だ、早造鞆を作り、鍔は麻糸を巻いて巻上げ、それを太惣次の前へ持つて来た

村正「さて御主人、お約束の一口、漸く出来上りました、手前が一心罩めて作りました刀、大言を拂ふやうでございませうが、鐵石も切れやうと存じます、充分之にてひよをお退治下さい」
太惣次は押頂き
太「有難う存じます、自分が殺されるともひよは必ず之れで退治ます」
村正「どうか確かりやつて下さいませ」

太惣次は早速それを持つて名主の處へ行き、是々と話をする、名主も共に喜んで兎に角鎮守様へお参りを

したら宜からと、村の鎮守天王様へ行くと、神宮も氣の毒に思つて種々慰め、豫て御領主から奉納されておりました重藤の弓に驚の風



切の羽を以て矧いたる矢を貸して呉れましたから、太惣次は大きに勇み立ち、我が家へ立戻つて来る、愈々太惣次が狒々退治に出掛け

ると聞いて、日頃懇意にする村の人達が挨拶に来る、口には皆な
「美事に退治をして歸つて来て呉れ」
ろといふが、腹の中では別れの心算だ、其の夜は早く休み、翌朝早く支度を致すと、女房がこしらいた握り飯を腰に着け、山氣を拂ふ爲に瓢に酒を入れ、長い紐を付けて肩がら樹に掛けた村正が一心罩めて鍛へ上げた一刀を腰に差し、矢を背負ひ、弓を携へて我が家を

立出でる
女「それではお前様、氣を注いで……」
太「あゝ大丈夫だ、必と獸

物を退治して歸つて来るぞ」と云ふ大惣次も、之が今生別れ、住馴れた我が家の見納めかと思へば、胸は張裂ける思ひでございませう、村正は村外れ迄送つて来て村「夫では太惣次殿、氣を注いでお出でなされ、若し一兩日経つて出遭はぬやうであつたら一旦戻つて来なされるが宜い」
太「有難う存じます、では貴所も身體をスツカリ直して立派な刀鍛治になつて下さいよ」
後は暫らく無言、村正も他人の様に思はれないで、豪氣な人では有るが、ハラ／＼と涙を流して居る。太惣次も心弱くは叶はじと太「では村正殿、之でお別れを告げますぞ」
村「お留守は必ず手前が致します、氣を付けてお出なさいませ」
そこで二人は別れを告げて大惣次はドンドン山を登つて行く、村正は暫らく見送つて居りましたが、懸て木影岩影に姿が隠れましたから、諦めて家へ立歸り、泣き伏してゐる女房を慰める此方は太惣次、ドンドン山奥深く入つて行つたが其の日は遂に狒々に出逢はなかつたから、自然に出来た岩穴に入つて一夜を明かし翌朝は又谷川の水で咽喉をしめし握り飯を食べて腹をこしらへ、彼方此方と狒々を尋ねて歩く、どうも見當らない、其の日の八つ少し過ぎ、餘り疲れたから木の根に腰を下し休息をしてゐる内にトトロと睡んだ、暫らくして、心付くと何處からか生臭い風が吹いてくる「ハテをかしい」と思ふ間も無く、ガサ／＼と云ふ物音をさせながら前の杉の大木から下りてくる物があるから、ヒョイト見上げると一丈餘りともあらうといふ程の大きな狒々、齒を剥き出し太惣次を睨みながら下りて来る。扱こそ怪物と思つたから、狒々を狙つて兵ツと切つて放つたが矢はひよの横面を掠つて飛んだ。奇なる聲を發しながら地上へ飛降りたひよは、二の矢を番へ様とする太惣次目掛けて飛掛つて来た、餘りの恐ろしさに太惣次はウームと云ふと氣絶をして倒れる。途端に差し居た村正の一刀がスラリと抜け落ちると、機會といふにしては餘りに不思議、飛掛つて来たひよの下腹にグサと刺さつた。

豚 肉 蒲 鉾 田 三三三 屋

外科
専門線 X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

一血山盛八世
平二警察署通り
魚清食堂部
出前持至急入用
電話六三三番

魚清新案の独特な尖端的!!!
せ印 朗アイス
その風味!!!香!!!フレッシュな舌ざはり
容器もモダンで涼味満喫!!!
暑さ厳しい折柄皆様には
御變りありませんか
御伺ひ致します